

【 71 】

|         |   |
|---------|---|
| 氏名      | 篠 田 潤 子   |
| 授与した学位  | 博 士   |
| 専攻分野の名称 | 医 学   |
| 学位授与番号  | 博甲第 2300号   |
| 学位授与の日付 | 平成14年3月25日  |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系整形外科学専攻<br>(学位規則第4条第1項該当)   |
| 学位論文題目  | Carpal Tunnel Syndrome Grading System in Rheumatoid Arthritis<br>(慢性関節リウマチに伴う手根管症候群の治療方針) |
| 論文審査委員  | 教授 榎野 博史 教授 清水 信義 教授 村上 宅郎  |

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

手根管症候群 (CTS)は日常診療でよく遭遇する疾患であり、慢性関節リウマチ (RA) による滑膜炎も原因となることがある。RA に伴う CTS の臨床分類と治療成績について検討を行った。

RA の経過中に CTS と診断された 21 例 29 手 (男性 1 例、女性 20 例) について調査した。筋電図 (EMG) による診断基準は正中神経の遠位潜時 (DML)、伝導速度 (SCV) がそれぞれ 4.3ms 以上、45m/s 以下とした。CTS の治療の前に RA の全身的なコントロールを行った。Hashizume の分類に基づき grade1~3 に分類し、さらに RA の程度により a)、b)に分類した。この分類により治療方針を保存的療法、鏡視下手根管開放術 (ECTR)、観血的手根管開放術 (OCTR) から選択した。Kelly の評価基準によって治療成績を判定した。

保存的療法が 8 手、ECTR が 11 手、OCTR が 9 手、ECTR 施行後 OCTR 施行例 1 手であり、治療成績は excellent が 19 手 (65.5%) good が 5 手 (17.2%) fair が 4 手 (13.8%) poor が 1 手 (3.4%) であった。我々の臨床分類は RA に伴う CTS の治療選択を行う上で有用であった。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は慢性関節リウマチ (RA) に伴う手根管症候群 (CTS) の臨床分類と治療成績について検討を行ったものである。CTS を Hashizume の分類に基づき屈筋腱鞘滑膜炎増殖の程度により grade 1~3 に分類し、治療方針を選択し、Kelly の評価基準によって治療成績を判定した。Hashizume の臨床分類は RA に伴う CTS の治療選択を行う上で有用であった。本研究は CTS の分類が治療の上で有用であることを明らかにしたもので重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。